

ずいそう

我が家のふたごちゃん

亀田 慎司



恥ずかしながら我が家のふたごちゃん(姉:なっちゃん 妹:のんちゃん)をご紹介します。

1. 始まり

2010年3月ある日の産婦人科にて、診察を終えた妻は、目をまん丸にして駆け足で診察室を出てきました。「見て！」妻からエコー写真を見せられ、お父さんになるんや！と思い「やったやん！」との返事に「ちゅう！ちゅう！よく見て！」よく見ても反応薄い私に「双子ちゃん！」「…！」驚きと喜びで言葉が出ませんでした。ここから、ふたごちゃんとの物語が始まりました。

2. 誕生

妊娠が判ってからすくすくと妻のお腹の中でふたごちゃんは成長し、5ヶ月目には街を歩いていると「出産予定日いつ～大変やね」って、臨月くらいパンパンのお腹を見ておばちゃん達によく声をかけられました。そんなお腹だったので、妊娠8ヶ月以降は入院することになり、初めての子供だった私は、一人で我が子を迎える準備にパニック状態でした。双子なので特別な準備が必要なのか、何を準備すれば良いのか…雑誌やネット検索しながら、購入しなければならないものを手当たり次第に調べました。

(双子というだけで特に準備が必要であった訳ではなく、×2すれば良いだけでした)

誕生までに一番悩んだのが、名前でした。双子あるあるで二人の名前を合わせると熟語になる名前にと考えたりもしましたが、もし一人に何かあったらどうするの？など反対意見が多くなかなか決まりませんでした。その後、何日も何日も時間をかけていくつも考えた候補からは結局選ばず、ファミレスでふと思い浮かんだ名前にしました。

『和んだ心でまわりに希望をもたらす2人でいて欲しい』という想いで「和希(なごみ) 望心(のぞみ)」と命名しました。

そして2ヶ月が経ち、帝王切開で出産、誕生！しわだらけの女の子ふたりに会いました。



写真—1

3. 退院

出産後、2週間ほどで退院でき、妻の実家へ。笑顔の子供たちとの日々を思いながら早く退院してこないかと待ち遠しかった日々もつかの間、想像もしなかった慌ただしい日々が待っていました。とにかく、何をしても×2…一人が泣くともう一人も泣き、ミルクを上げる時も同時にあげないと大騒ぎ。そして、不思議なことにうんちも同じタイミング。一人のおむつを替えるとほぼ100%の確率でもう一人もしています。そんな時に何より一番困ったことが、ミルクもおむつ交換も同時にしなければならなかったことです。何故なら、ふたりの見分けが付かなかったのです。一卵性であったので、この頃ふたりは特徴を見出すことができず、見分ける最終手段は、病院にいた時に足首に付けていたネームリングのみでした。

私が、昼間仕事に出ている間、妻は初めての子育て×2に疲労困憊、妻の両親の協力を得て無事に2ヶ月が過ぎました。

経験者の両親は、愚図らずふたり同時にミルクを飲ませる方法、あやさなくても寝てくれる布団の包み方、道具を使ってのあやし方、寝かせる時にうつぶせにならないようにする枕の置き方、その他いろいろ。今思ってもこの2ヶ月がなければ、この先も乗り切れなかった貴重な2ヶ月でした。



写真—2

4. 帰宅

術を伝授して妻の実家から我が家に戻ってきました。我が家に戻ってきて親の助けがなくなり、毎日が夜勤状態。やることが倍になってしまうので、余裕がなく感じる毎日。

私は、昼間仕事に出ますが、妻は24時間ふたりと奮闘。ぐったりするぐらい疲れ果てていましたが、たまに見せるふたりの可愛い笑顔に癒されていました。

そんな忙しいと思う日々も1年が経ち、寝て泣くことが仕事だったふたりは、すくすくと育ち、寝返りをし、ハイハイをし、そして掴み立ちをするようになりました。その成長につれてふたりの関係が悪化していくとは思ってもよかったです。

いろんな種類のおもちゃを買い与えても、大好きなひとつのおもちゃを争奪バトル。ふたりの好みは、一緒でした。結局、争奪されているおもちゃをもうひと



写真—3



写真—4

つ買い与え平和が訪れます。この頃から双子用のベビーカーを購入して外出するようになりました。そんな時、よく双子を育てたお母さんに声をかけてもらいました。「4歳になると少し楽になるから、お母さん頑張ってください！」4歳になると何か変化があるのか、その時はわかりませんでした。4歳の春に理解することが出来ました。

5. 幼稚園入学

4歳になったふたごちゃんは、幼稚園に入園しました。幼稚園に行っている間、少し妻に自由な時間が出来ました。多分、双子のお母さんがおっしゃっていた意味はこれかな？と思っています。しかし、入園前は大変でした。準備する物が多く、腱鞘炎になるくらい名前を書きました。そして入園してしばらくたった頃、先生からのお願いがありました。「ふたりの見分けが付かないので、見分けるコツを教えてください！」この頃になると、親の私たちは見分けがつくようになっていたのですが、これと言った具体的な特徴もなく、親だから感じるふたりを見分ける何かがあったのですが、それを先生に伝えることが出来ず考えた方法が、髪留めのゴムの色を変えることでした。

子供たちに、色を選ばせて、なっちゃんは、水色、のんちゃんは、ピンクになりました。



写真—5



写真—6

そうなのです！好みの色が違ったのです。赤ちゃんの時は、好みが一緒でよく争いを起こしていましたが、予想外の結果でした。そして、徐々に服の好みにも違いがみられるようになり、性格にも違いが見えてきました。

6. 小学校入学

時が経つのは早いもので、幼稚園を卒園して小学校に入学の時期になりました。

幼稚園入園の時と同様、物を揃えるのと名前が一苦労。そして、小学校入学といえばランドセルです。のんちゃんは、赤色を選んだのですがすぐに手に入りましたが、なっちゃんが選んだターコイズブルーのランドセルには、手こずりました。何とか見つけて府外まで遠征して購入。満足気にランドセルを背負い小学校に入学しました。

双子は、同じクラスにならないのでお互い遊ぶ友達が違うのかな？と思いきや、いつもふたりは同じ友達と遊んでいました。しかし、家では、めちゃくちゃ喧嘩が多いふたりです。けれど、ふたりを見ていると仲の良い友達がいつも一緒にいる感じで、親の私がみても羨ましく思う時もあります。

ふたりの成長は、身長、体重に差が出てきました。一卵性は、同じ遺伝子なので成長の過程も同じと思っ



写真—7



写真—8

ていましたが、のんちゃんの身長がすくすく伸びてきました。とは言っても、なっちゃんとの差は、2cmほどです。声は、一緒に聞こえるので、電話が困ります。電話でふたごちゃんと話すときは、話している内容でどちらかを想定して話を合わせます。「じゃあ、〇〇と代わるわ！」って言ったときに、答え合わせが出来ます。

(普段の電話では、冒頭に「どっち？」と素直に聞きますが…)

こんなふたりですが、とっておきの技があります。

その技が発覚したのは、小学校6年生の時でした。友達が持っているということで、まだ早いとは思いましたが、スマートフォンを持たせることにしました。

スマートフォンを持って、数日経ったある日、なっちゃんが凄腕の剣幕でのんちゃんに、「勝手に私の携帯みんといて！」と怒っているのです。のんちゃんは、「私のやと思って、間違えただけやん！」と。ロック設定したから、勝手に見られる訳ないのに。…!!まさかと思いきや、検証。なっちゃんのスマートフォンをのんちゃんが見ると見事にロック解除されました。ロック設定を顔認証でしていた為、同じ顔と認識して解除されてしまったようです。

うちのふたごには、顔認証システムが通用しないことが判明しました。

今では、暗証番号でロックして平和な日々を送っています。

7. 現在

こんなふたごちゃんも今年春に中学校に入学しました。

入学となると、またまた大変な準備がやってきます。最近では、名前を書くより費用がかかり大変です。

私は、学生時代野球をやっていたので、よくふたりとキャッチボールしていました。それが影響したのか、ソフトボール部に入り汗だくで帰ってくる姿を見ると嬉しさと逞しさを感じます。

父親の勝手な理想ですが、ふたりが将来「土木女子」になってくれたらいいなと思っています。現在のふたりの夢は、「なっちゃん：トリマー」「のんちゃん：家族と一緒にいること」だそうです。この先、我が家のふたごちゃんの物語はどのように描かれていくのでしょうか。とても楽しみです。頑張り！我が家のふたごちゃん！